

実践的コミュニケーション能力を伸ばす学習指導の工夫

－選択教科での会話表現の指導を通して－

糸満市立潮平中学校教諭 赤 嶺 幸 乃

内容要約

選択教科において、聞くこと・話すことを中心とした実践的コミュニケーション能力を伸ばすための学習指導の工夫を試みた。英語を自然に使う雰囲気作り、会話を継続するための表現の習得や工夫、また学んだことを活かせる言語活動の場の設定について研究を重ねた。授業にサイコロトークを取り入れ、どのように会話を続けるのかを体験しながら学ばせることによって、実践的コミュニケーション能力を伸ばすことができた。

【キーワード】 実践的コミュニケーション能力 聞くこと・話すこと 選択教科
雰囲気作り 会話を継続するための表現や工夫 場の設定 サイコロトーク

目 次

I	テーマ設定の理由	51
II	研究内容	52
1	実践的コミュニケーション能力とは	52
2	実践的コミュニケーション能力を伸ばす学習指導の工夫	52
III	授業実践	54
1	単元名	54
2	単元設定の理由	54
3	単元の指導目標	54
4	単元の指導計画と評価計画	55
5	本時の指導計画	56
6	授業仮説の検証	58
IV	研究の考察	58
1	英語を自然に使う雰囲気作り	58
2	実践的コミュニケーション能力	59
V	研究の成果と今後の課題	60
1	研究の成果	60
2	今後の課題	60

＜中学校 英語＞

実践的コミュニケーション能力を伸ばす学習指導の工夫

－選択教科での会話表現の指導を通して－

糸満市立潮平中学校教諭 赤 嶺 幸 乃

I テーマ設定の理由

目まぐるしく変化する今日の国際化・情報化社会において、視野を広げ、異文化を理解・尊重しながら、世界の人々と共存していくためには、コミュニケーション能力は不可欠である。このような社会の流れを受けて、これまでの外国語教育のあり方が大きな変革を迫られている。学習指導要領では、外国語科の目標として、実践的なコミュニケーション能力の基礎を養うことが示され、特に聞くことや話すことの能力が重視されている。

これまでの実践では、英語を使う雰囲気作りを十分に行うことができなかったため、英語でのコミュニケーションの楽しさを十分に味わわせることができなかった。また、聞く・話す活動を行ってきたが、生徒の英語の能力は様々で、個々の実態にあった適切な指導を効果的に行うことができなかった。実際に生徒と英語で会話をしようとする、教師の発問に対して、生徒が答えるという一方向のコミュニケーションになってしまいがちで、黙ってしまったり、すぐ日本語に頼ってしまったりして会話を続けることができない。英語を使ってコミュニケーションを図ることに慣れていないため、自信がなかったり、間違えることを恐れてしまったりして、積極的にコミュニケーションを行えないことがその一因である。

選択教科では、ある程度興味・関心をもった生徒が共に学習するので、生徒により意欲をもたせ、英語でコミュニケーションを図る指導、特に英会話を通しての聞くことや話すことの指導をより効果的に行うことができる。実践的コミュニケーション能力を伸ばすためには、どのように会話を続けていくかを実際に会話をさせながら学ばせ、より自然な会話を楽しむことができるよう指導していくことが必要である。また、英語を自然に使う雰囲気作りを十分に行うことで、英語を使ってコミュニケーションを図ることに慣れ、自信をもって話すことができるようになる。さらに、学んだことを活かすことのできるコミュニケーションの場を設定することも大切である。実践的にコミュニケーションを図りながら、相手と意思疎通ができたという喜びを感じ自信を持つことで、積極性や興味・関心をさらに高めることができる。

このようなことから、英語を自然に使う雰囲気を作った上で、会話を続けていくための様々な表現や工夫を実践的に学習させ、学んだことを実際に使える場の設定を工夫することによって、実践的コミュニケーション能力を伸ばすことができると考え、本テーマを設定した。

＜研究仮説＞

選択教科において、英語を自然に使う雰囲気を作り、会話を継続するための表現の習得や工夫をさせ、それを活かせる場を設定すれば、会話を続けることができるようになり、実践的コミュニケーション能力を伸ばすことができるだろう。

Ⅱ 研究内容

1 実践的コミュニケーション能力とは

コミュニケーション能力は次の4つから構成される。

- (1) 文法能力・・・英語の語句、構文、文法や発音などについての知識をもち、聞いたり読んだりする理解の能力とそれらを話したり書いたりする表現の能力
- (2) 社会言語能力・・・英語を使う際にその表現がその場面に適しているかどうかを判断する能力や、文を適切な場面で使うことのできる能力
- (3) 談話能力・・・対話や談話などを全体として意味のつながりを理解したり表現したりする能力
- (4) 方略能力・・・コミュニケーションが断絶することなく、スムーズに行われるように言い換えたり、繰り返したり、言葉につまった時などにつなぎ表現を使ったりしながら、コミュニケーションを継続させる能力

2 実践的コミュニケーション能力を伸ばす学習指導の工夫

(1) 指導過程

上の4つの能力から、実践的コミュニケーション能力とは、発音や文法的な正確さだけではなく、円滑にコミュニケーションをすすめていく能力も含まれることがわかる。その能力を伸ばすためには、まず英語を積極的に使おうとする態度が不可欠である。そこで最初は、多少の文法的な間違いは気にせずに、円滑にコミュニケーションを図ることに焦点をあてて、方略能力を身に付けることを重点的に指導していく。生徒は、「会話を続けることができた!」という達成感や充実感から喜びや楽しさを感じ自信をつけていく。ある程度スムーズに会話が続けられるようになった時点で、次第に文法的な正確さにも重点を置く指導に変えていき、実際に言語を使わせながら、個に応じた適切に指導をしていく。このような指導により、コミュニケーションに対する高い興味・関心や自信に支えられ、方略能力を中心にコミュニケーション能力を伸ばすことができると思われる。

(2) 英語を自然に使う雰囲気作り

教師は、生徒が英語を使いたくなるような雰囲気作りに努めなければならない。以下のような工夫を取り入れて、生徒が自然に英語を使うように促す。

- ① 教師がコミュニケーションを楽しむ 生徒の言うことに反応し、驚いたり、笑ったり、感動したりすることが大切である。
- ② 英語で授業を行う どのように言葉を使うかを示すために英語を使う。易しく言い換えたり、習っていない単語をいくつか取り入れる工夫をする。また、授業中は、英語でコミュニケーションを図るように努力させるような環境を作る。生徒が日常生活で使える簡単な英文をできるだけ多く教え、積極的に使わせるようにする。
- ③ 表現豊かに接する コミュニケーションは言語だけで成り立っているのではなく、ジェスチャーや顔の表情などを効果的に使って生徒の理解を助ける。
- ④ 体を動かす活動を取り入れる ゲームや歌を取り入れたり、少しでも体を動かしたりなどの活動を取り入れる。体験をしたり、体を動かしたりして学んだことは忘れにくい。
- ⑤ 生徒を褒める 自信を持たせるためには、褒めることはとても大切である。生徒の努力や能力を惜しみなく褒め、もっと英語を学習したい、英語でコミュニケーションを図りたいと思わせるようにする。

(3) 学習教材

① 会話を続けるための表現集の作成

相づち、つなぎ言語、困った時の表現、ジェスチャー、挨拶表現を習得させるために、資料1のような表現集を活用させる。表現をレベル分けし、簡単なものから難しい表現まで選んで使えるようにする。どの表現を何回使ったかをチェックさせ、色々な表現を意識して使わせる。

相づち表現

☆ 使えた表現には、チェックをしていきましょう。5回も使えれば、ばっちりマスターしていますね。

level		1st	2nd	3rd	4th	5th
1	ah-hum	☐	☐	☐	☐	☐
2	O.K.	☐	☐	☐	☐	☐
3	alright	☐	☐	☐	☐	☐
4	yeah	☐	☐	☐	☐	☐
5	I see.	☐	☐	☐	☐	☐
6	oh	☐	☐	☐	☐	☐
7	wow	☐	☐	☐	☐	☐
8	good	☐	☐	☐	☐	☐
9	oh, no!	☐	☐	☐	☐	☐
10	really?	☐	☐	☐	☐	☐

聞き手が相づちをして
くれると、話し手は嬉しい
し、話もはずむワン！



まずは、簡単な相づ
ちから、どんどん使っ
てみたいいいエ～！



話題メモ

My Family

○ 会話をする時の助けとなるようなメモを日本語で簡潔に書いて下さい。使えど
うは英単語も少しメモしてみましょう。

家族構成:

My family has 3 members.

家族の人の職業:

My father is a nurse, very busy.

家族の人の年齢: My mother works for マックスバリュ

住んでいる所:

We live in Ahagon in Italian

よく家族で行く所:

We live near ABC ジョイファ

家族の人の趣味:

We sometimes go out to

My mother

その他:

I like mother, but, I don't

* 相手への質問

Do you like family?

資料1 会話を続けるための表現集 (相づち)

資料2 話題メモ

② 話題メモの活用

自分の話したいことをメモし、話す際の助けとなる話題メモ (資料2) を活用させる。横に例文をのせ、それを参考にしながら自分の表現に活かすことができるようにする。

③ 身近な話題の設定

いくつかの身近な話題に沿って言語活動を行う。身近な話題を設定することにより、話す材料を見つけやすく比較的内容を膨らませやすい。また、相手への質問もしやすいし、話題を広げやすい。習得すれば、いつでも誰とでも、その話題で話ができるという利点がある。

(4) 学習したことを活かす場の設定

- ① 少人数での活動 教師主導型の授業では、生徒の話す活動の時間は限られてくる。生徒同士の実践的なコミュニケーション活動を活発にさせることで、英語を使う機会が増え、お互いに学べることができる。話がしやすいように少人数のグループで活動させる。
- ② 多くの人との会話 生徒、教師、ALTなど多くの人と繰り返し練習を行い、コミュニケーションの相互作用や即興性を学ぶ。話題は同じでも、相手によって話の展開が違ってくる。
- ③ 目標設定 生徒の実態にあわせて、最初は「1分間会話をしてみよう」、次に2、3分間へと時間をのばしていく。明確な時間の目標を掲げることにより、生徒の学習に取り組む意欲を引き出すようにする。
- ④ ゲームや小道具の活用 ゲームがもたらす競争が活動を活気のあるものにし、ペアやグループでの活動で、英語を使う機会を多く与えることができる。ボール、サイコロ、トランプなどの小道具を積極的に活用し、生徒の興味・関心を惹きつけるように努める。

(5) 個への対応の工夫

① 正確な生徒の実態把握

教研式の目標基準準拠検査を実施し、生徒の英語の力を客観的に把握し、生徒の実態にあった学習指導の工夫に役立てる。筆記試験だけでは評価しきれない実際に話す力は、実技テストを行うなど、様々な観点から評価し、できるだけ正確な把握ができるように努める。

② 指導形態

個に適切に対応することができるように、ティームティーチングで授業を行う。T1が授業を主導して机間指導を行いながら、一人一人に声かけをしたり、質問に答えたりする。T2は生徒と一緒にゲームや活動に取り組み、援助を必要とする生徒の支援をきめ細かく行う。

(6) 選択教科での評価

選択教科では、生徒の良さや個性を伸ばすため、一人一人の実態を的確に把握し、個人内評価を中心に評価していくことが適切である。また、選択教科は学習内容が多岐にわたるため、その評価も様々な観点から評価されるべきである。本研究では、スピーキングテスト、生徒同士や教師との会話、ALTとの3分間会話などでコミュニケーションに対する関心・意欲・態度や表現技能の観点を中心に評価していく。コミュニケーションに対する関心・意欲・態度の評価では、生徒自身による自己評価が大切である。教師の援助として、自己評価表に沿えるコメントで生徒を励ましていく。

Ⅲ 授業実践

1 単元名 「英語でサイコロトークを楽しもう」

2 単元設定の理由

(1) 教材観

会話を楽しむということは、身の回りのことや、テレビ番組、趣味などの共通する話題について、情報や意見を交換しあってコミュニケーションを図り、より相手のことを理解することだと捉える。サイコロトークは、テレビ番組などで生徒がよく知っている会話形式である。参加者は順番に話し手になり、サイコロを振って決まったテーマについて話をする。聞き手は相づちを打ったり、質問をしたりしながら会話をして楽しむのである。

サイコロトークを単元として取り入れることにより、ゲーム感覚で身近な話題について会話をする機会を多く設定することができる。生徒の実態にあわせて、話題の数を絞ったり、様々なテーマを提示することができるので、教師が意図する基礎的・基本的事項を使つての学習へと導きやすい。会話をする場をペア、少人数のグループ、クラス全体など、指導の目的や生徒の実態に応じて様々に設定しやすいことも利点である。また、話し手の一方的なスピーチではなく、聞くこと話すことを常に意識させることができる。例えば聞く時に必要な相づち表現や、話をする時に効果的なつなぎの表現、ジェスチャーなどの会話をする時に特有な表現の指導を取り入れ、より自然な会話を楽しむことができるよう導くことができる。普段は教師と生徒間の質問と答えに終始してしまいがちで、英語を自然に使ってコミュニケーションを取ろうという雰囲気は作りにくい。しかし、サイコロトークは、生徒同士で英語を話す絶好の機会を与えてくれる。

このように、サイコロトークを取り入れて、どのようにすれば会話を続けていくことができるのかを実践的に学習し、身近な話題についての会話を楽しむことができれば、実践的コミュニケーション能力を伸ばすことができるだろうと考え、本教材を選んだ。

(2) 生徒観 省略

(3) 指導観 省略

3 単元の指導目標

- (1) 声量、表情、目線に気をつけ、間違いを恐れずに話そうとするなど積極的にコミュニケーションを図ろうとする。(関)
- (2) 身近な話題について、自分の考えや気持ちが聞き手に伝わるように話すことができる。(表)
- (3) 話を聞いて相づちを打つことができる。(表)
- (4) 適切につなぎ表現、わからない時、困った時の表現やジェスチャーをいれながら会話を続けることができる。(表)
- (5) 会話を発展させるために相手に質問することができる。(表)

4 単元の指導計画と評価計画

配時	学習のめあて	学習活動	観点別と評価規準（評価方法）
1	先生や友達と英語で聞いたり話したりできる雰囲気を作ろう。	・ゲームを通して、様々な挨拶表現や、目線・表情・声量に気をつけながらコミュニケーションをとることを学習する。	関：積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。(観・教・自)
2	相づちを打ちながら、話が聞けるようにしよう	・相づちの役割や使い方を学習し、実際に相づち表現を使いながら話を聞く活動を行う。	表：適切な相づちを打ちながら話を聞くことができる。(観・教・自)
3	サイコロトークのテーマ（私の好きなテレビ番組）について話をしよう。	・話題メモを利用して話すための準備をしてグループで会話をする。	表：好きなテレビ番組について、相手に伝わるように自分の考えや気持ちを話すことができる。(観・発)
4	つなぎ表現を使いながら、話ができるようにしよう。	・つなぎ表現の役割や使い方を学習し、実際につなぎの表現を使いながら話をする活動を行う。	表：適切なつなぎ表現を使いながら話をすることができる。(観・教・自)
5	サイコロトークのテーマ（私の家族）について話をしよう。	・話題メモを利用して話すための準備をし、グループで会話をを行う。	表：自分の家族について、相手に伝わるように自分の考えや気持ちを話すことができる。(観・発)
6	ジェスチャーをいれながら、話ができるようにしよう。	・ジェスチャーの役割や大切さを学習し、ジェスチャーをいれながら話をする活動を行う。	表：ジェスチャーをいれながら話をすることができる。(観・教・自)
7	サイコロトークのテーマ（私の夢）について話をしよう。	・話題メモを利用して話すための準備をし、グループで会話をする。	表：自分の夢について、相手に伝わるように自分の考えや気持ちを話すことができる。(観・発)
8	相手に質問したり、答えたりすることができるようにしよう。	・会話をしながら、相手に質問したり、答えたりする活動をする。	表：相手に質問をしたり、聞き取れない時は聞き返したりすることができる。(観・教・自)
9 本時	グループでサイコロトークができるようにしよう。	・グループやクラス全体で、今まで学習してきたサイコロトークのテーマに沿って会話をする。	表：身近な話題について自分の考えや気持ちが聞き手に伝わるように話すことができる。(観・発)
10	ジョディ先生と2分間サイコロトークができるようにしよう。	・一人ずつALTとサイコロトークを行う。今まで学習してきたテーマについて、できるだけ会話が続くようにする。	関：相づち、つなぎ表現、ジェスチャー、困ったときの表現などを使い、会話を続けようとしている。(観・自)

評価方法の略記号 観察・・観 教師との会話・・教 発表・・発 自己評価・・自

5 本時の指導計画

(1) 単元名 「英語でサイコロトークを楽しもう」

(2) 本時の指導目標

- ① グループでのサイコロトークで、できるだけ話題メモを見ずに話することができる。
- ② 相づち表現、つなぎの表現、ジェスチャーやわからない時や困った時の表現を適切に取り入れながら会話を続けることができる。

(3) 授業仮説 サイコロトークで身近な話題について、相づち表現、つなぎの表現、ジェスチャー、わからない時や困った時の表現を適切に取り入れることができれば、会話を続けることができるだろう。

(4) 準備する物 単元目標・サイコロトークテーマ表・自己評価表・トランプ・ボール大4個・ボール小4個・サイコロ4個

(5) 本時の展開 Teaching Procedure

Stages (Time)	学習活動	Activities		Evaluation
		Teachers ◎T1 ○ALT	Students	
Before class starts	授業開始前 - 生徒が教室に來しだい、前時の自己評価表を返しなが、一人ずつあいさつをする。 *英語を自然に使う雰囲気作りに努める。	Before the class starts ◎Welcome the students at the door and greet them. ◎Return a self-evaluation sheet to each student and make a short comment how he or she performed last class.	・Greet ◎○. ・Receive the self-evaluation sheet and a comment from ◎.	
Warm-up (7 min)	あいさつ活動 - 自分と同じカードを持っている3人を探す。 - お互いに挨拶をしたら、同じカードの人は一緒になって、できるだけ早く決められた席につく。早く座ることができたグループの勝ち。 - 最後のグループの人の名前は、頑張れリストとして黒板に書かれる。後の活動で勝つと、名前は消される。	Greeting activity ◎Ask some students "How are you?". ◎Give directions how to play the "Greeting activity".  活動内容を説明している様子 ◎Lead and observe the activity and assist the students when it's necessary. ○Play the activity with students and assist them when it's necessary. ○Write the names of the losing team on the board as a GANBARE list.	・Find 3 people who have the same cards and greet them using a variety of expressions. Get together with the members and find the assigned seats as soon as possible. The fastest group wins the activity. ・The names of the losing team are written on the board as a GANBARE list. The names are cleared if they win any of the following activities.  あいさつ活動の様子	
Communicative activity (13 min)	キャッチボール会話 あいさつ活動と同じ人で3名グループを作って、円になって座る。じゃんけんで、1番~3番までを決めておく。	Catch conversation activity ◎Let the students make groups and decide the order on their own from 1 to 3. ◎ Explain how to play the catch conversation activity.	・Make a group of 3 people with the same members as the greeting activity. Decide the order of each person by rock scissors paper.	

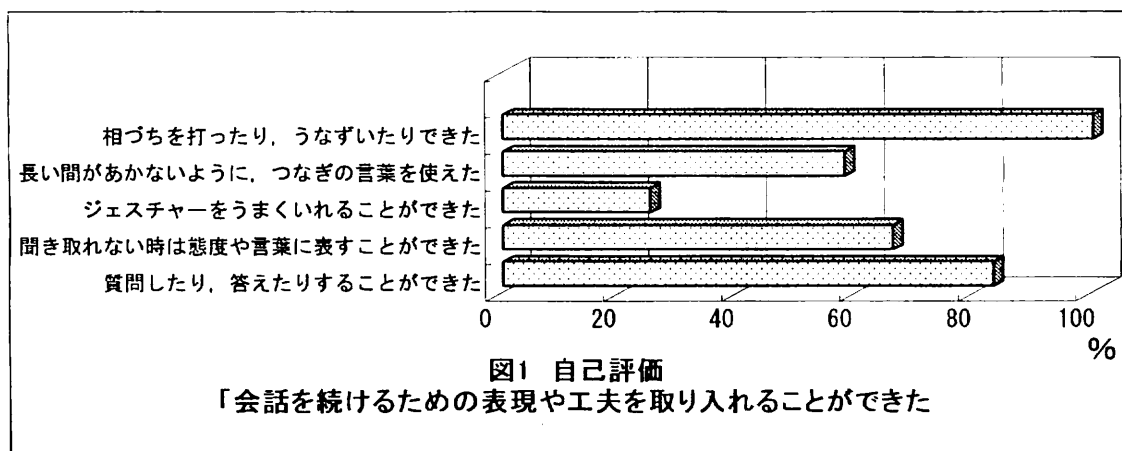
	・前時に学習したサイコロトークのテーマ「私の夢」について会話をします。会話のキャッチボールをイメージして、ボールを投げたり受け取ったりする。 ・交互にグループ内で1番と2番、2番と3番、3番と1番のようにペアを作って交替して行っていく。 ・ボールを落としたり、5秒以上沈黙が続いたら終了。終わってしまったペアは立つ。頑張れリストに名前が書かれる。	◎○Lead and observe the activity and assist the students when it's necessary. ◎○Make a positive comment on the performance of each student while observing the activity. ○Write the names of the losing pairs on the board.  キャッチボール会話の様子	・Have a conversation on the topic "My Dream" in the group. Throw a ball to the other after talking. The partner throws back the ball after responding. ・Take turns as follows: student number 1 and 2 first; 2 and 3 second; 3 and 1 the last. The waiting student of each group listens to the conversation carefully. ・The pairs which drop the ball or stop for more than 5 seconds should stop the activity and stand up. Their names are written on the board as a GANBARE list.	・Be able to speak his or her idea and feeling to make the listeners understand the content correctly about the topics, which is closely related to his or her life. ・Try to communicate with positive attitude using a variety of expressions and gestures.
Communicative activity (25 min)	グループでサイコロトーク ・キャッチボール活動と同じメンバーでグループを編成する。じゃんけんで、1番~3番までを決めておく。 ・順番にさいころを投げて、これまでに学習したテーマについて話をする。話し手と聞き手はペアで相づちをしたり、質問したりしてできるだけ会話を続ける。 ・交互にグループ内で1番と2番、2番と3番、3番と1番のようにペアを作って交替して行っていく。 ・5秒以上沈黙が続いたら終了。終わってしまったペアは立つ。頑張れリストに名前が書かれる。	Saikoro Talk in groups ◎Let the students make groups and decide the numbers on their own from 1 to 3. ◎Explain how to play the activity. ◎Set the goal to keep the conversation going for 3 minutes, then extend the time to 4 minutes as necessary. ◎Lead and observe the activity and assist the students when it's necessary. ○Observe the activity and assist the students when it's necessary. ◎○Make a positive comment on the performance of each student while observing the activity. ○Write the names of the losing pairs on the board.  グループでのサイコロトークの様子	・Make a group of 3 people with the same members as the catch activity. Decide the order of each person by rock scissors paper again. ・Throw the dice and talk about the topics in turns. The topics were prepared in the last 8 classes. ・The partner of the speaker gives responses and asks some questions to continue the conversation as long as possible. ・Take turns. The waiting student of each group listens to the conversation carefully. ・The pairs which stop the conversation for more than 5 seconds should stop the activity and stand up. Their names are written on the board as a GANBARE list.	・Be able to speak his or her idea and feeling to make the listeners understand the content correctly about the topics, which is closely related to his or her life. ・Try to communicate with positive attitude using a variety of expressions and gestures.
Consolidation (5 min)	・活動を終えての教師の感想 ・次の時間のお知らせ ・自己評価表記入	◎○Make comments about how the students did in the activities. ◎Announce the activity of next class ◎Let the students look back on their own learning activities and fill in the self-evaluation sheets. ◎Receive the self-evaluation sheet and make a individual comment to each student on his or her performance. ○Greet each student and see them off at the door.	・Fill in the self-evaluation sheet. ・Turn in the self-evaluation sheet and have a brief conversation with ◎○.	

6 授業仮説の検証

本時の授業仮説

サイコロトークで身近な話題について、相づち表現、つなぎの表現、ジェスチャー、わからない時や困った時の表現を適切に取り入れることができれば、会話を続けることができるだろう。

必要に応じて、会話を続けるための表現を使ったり、お互いに質問しあったりして会話を続けようとする努力が見られた。図1の自己評価の結果からも、様々な工夫をして会話を続けることができたと言える。グループサイコロトークでも、全員が話題メモを見ずに、できるだけ多くの情報を言おうと努力している姿が見られ、全員が目標であった3分間、会話を継続することができた。以上のことから授業仮説は有効であったと判断できる。しかし、ジェスチャーは、うまく取り入れることができていなかったもので、適切な指導が必要であった。



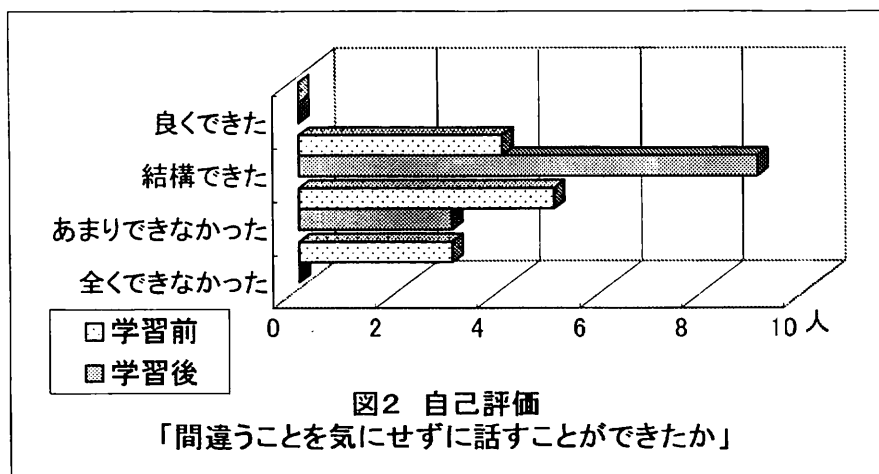
IV 研究の考察

研究仮説

選択教科において、英語を自然に使う雰囲気を作り、会話を継続するための表現の習得や工夫をさせ、それを活かせる場を設定すれば、会話を続けることができるようになり、実践的コミュニケーション能力を伸ばすことができるだろう。

1 英語を自然に使う雰囲気作り

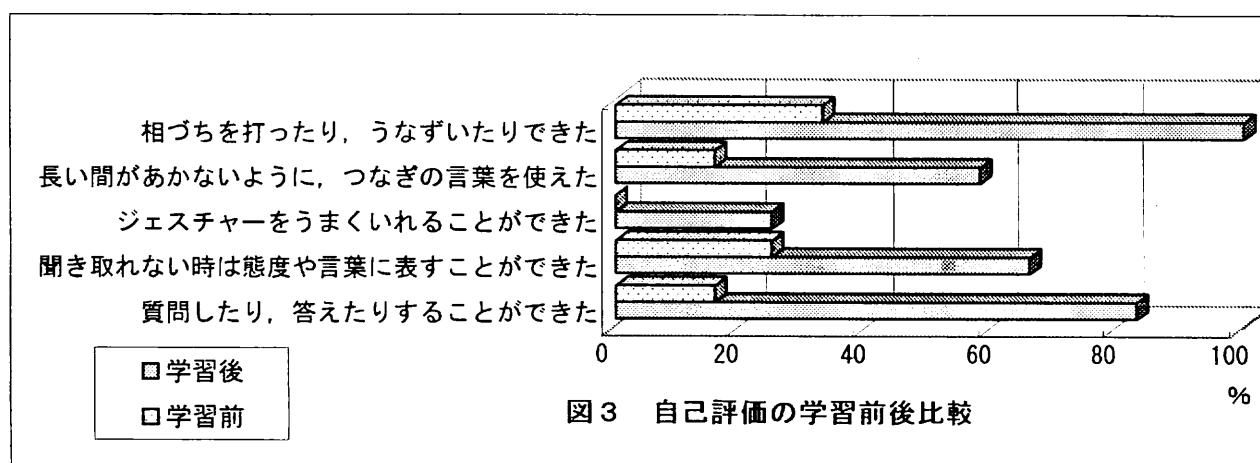
すべて英語で授業を行い、また生徒同士のコミュニケーションも英語で行わせるようにした。最初は日本語を使ったり戸惑ったりしていたが、次第に授業もスムーズに行えるようになった。図2の自己評価の結果から、間違うことを恐れずに話することができた生徒が多いということは、自然に英語を使う雰囲気が作ることができていたからだと言える。



2 実践的コミュニケーション能力

(1) 方略能力

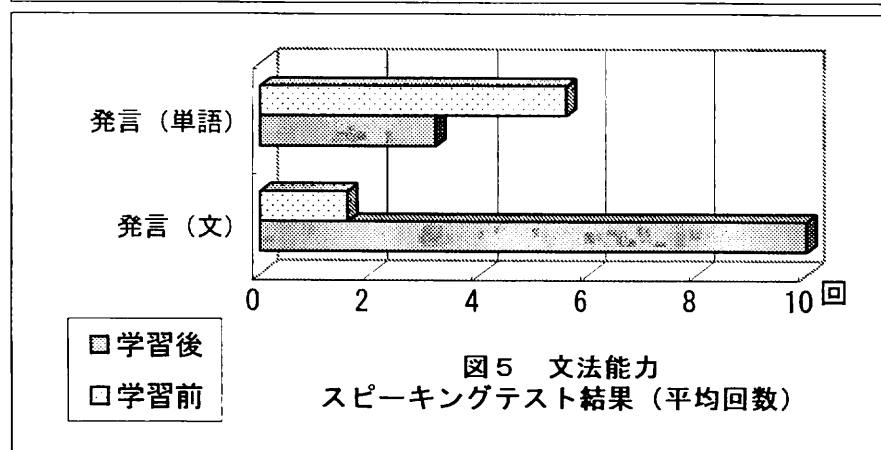
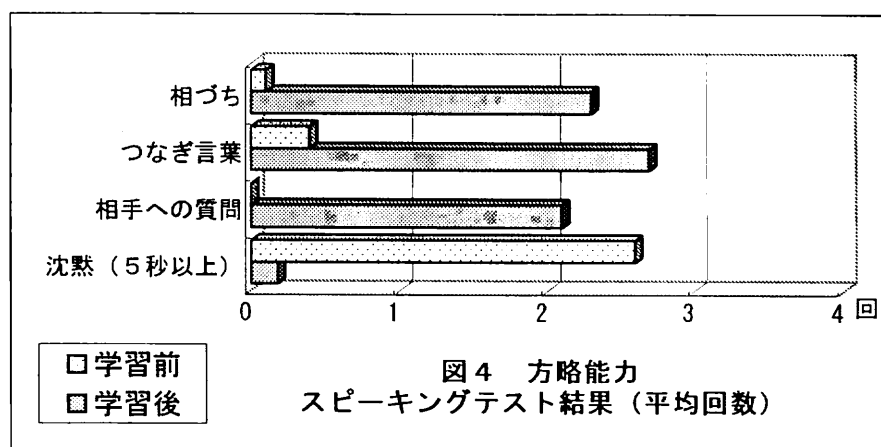
たくさん練習をする機会を得ることができたことで、図3からわかるように、単元の学習前と比べて、多くの生徒が様々な表現や工夫を取り入れながら、会話をするようになった。また、図4からも、沈黙することが少なくなり、相づち、つなぎ言葉やわからない時、困った時は繰り返しを要求したり、質問をしたりするなどして会話を続けることができた。これはコミュニケーション能力の方略能力が伸びたと言える。



(2) 文法能力

図5を見ると、学習前は文を作ることができず、単語で発言することが多かったが、学習後は主語や動詞をきちんと含んだ文での発言が大幅に増えたことがわかる。これは、会話の練習をする前に、話したいことを話題メモを活用して整理した効果だと考えられる。話題メモを活用することにより、既習の英語の語句、構文、文法や発音などについての持っている知識を整理し、何度も実際の言語活動で使うことによって定着させることができたと言える。このことからコミュニケーション能力の文法能力が伸びたと言える。

また、資料3からも、生徒自身が学習の成果を実感し会話を継続することができたことで、自信を持ちさらに興味・関心を深めたことがわかる。以上の



ことから、本研究仮説は有効であったと言える。

さいよは、かなりむかかしくて1時間 English を話すことも
大変な何言ってるのかも分からないぐらいだったけれど、
みんなを何回も練習したり、相っちのゲームもかして楽しんで
自然に英語が使えるようになってくのがうれしかったんです
これをまたちがう所で生かしたらいいなと思います

資料3 単元終了後の生徒の感想

V 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 英語を自然に使う雰囲気作りがうまくできたことで、生徒は積極的にコミュニケーションを図ろうとするようになり、英語でコミュニケーションを図ることの楽しさを味わわせることができた。
- (2) 会話を継続するための表現や工夫を取り入れて全員が3分間会話を続けることができるようになり、実践的コミュニケーション能力を伸ばすことができた。



ALT とのサイコロトークの様子

2 今後の課題

- (1) 本研究の取り組みを、選択教科だけでなく、学習の個人差にどのように対応しながら日々の英語授業にも取り入れていくかを研究する必要がある。
- (2) 選択教科で、どのように系統的に会話表現の指導を行なうかを研究する必要がある。

<主な参考文献>

太田洋・柳井智彦著	『英語で会話を楽しむ中学生』	明治図書	2003 年
松香洋子著	『英語のできる15歳』	松香フォニックス研究所	2001 年
影浦攻著	『新学力観に立つ英語科の授業改善』	明治図書	1996 年